

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット3階)

事業所番号	2790900456		
法人名	社会福祉法人大潤会		
事業所名	大冠カームグループホーム		
所在地	高槻市須賀町65番10号		
自己評価作成日	平成29年4月17日	評価結果市町村受理日	平成29年6月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階
訪問調査日	平成29年5月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家族様と密に連絡を取り、本人様の想いや考えと一緒に取り組んで頂けるように努めております。家族様だからこそ頂ける支援をお願いし、介護に関わって頂いております。入居後も本人様と関わりを持たれることで家族様の「施設へ入れてしまった」という罪悪感や後悔が少なくなるように支援できればと努力しております。また、介護ミスや事故等を予防することに当然努めておりますが、なおかつ、小さな事でも全て包み隠さず家族様へ報告することで、隠し事の無い施設、と家族様から信頼して頂けるようにも努めております。

できる限り制限の少ない生活が送れるような工夫を考えるように努めております。

大潤会グループ内の医師、歯科、リハビリ科との迅速な連携によって医療提供を行い、できる限り素早く入居者様の体調の変化に対応できるように努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果(ユニット3階)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人精神として「潤人潤我」を共有しており、地域の方々の個々の生活上に必要とされる医療・介護の迅速なサービス提供を追究し、同時に全スタッフの物心両面の幸福を追求していけるよう意識の統一を図っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の保育園児の訪問受け入れや、地元のお祭り、農作物の収穫の参加など地元に根差した活動を積極的に行うようにしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々が訪問しやすい場所として、出前講座や体操教室なども定期的を実施しており、認知症の理解を深める説明や、福祉サービスの紹介を行う等、事業所で培った知識・技術を地域社会に活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では毎回ご利用者様・ご家族様代表・自治会役員・地域包括支援センター職員を招き、事業所での行事・日々の取り組み等の情報を公開し、出席者からのご意見はサービスの質の向上に反映しています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所で問題が発生した場合や発生しそうな段階等、福祉指導課の担当者と密に連絡を取り、情報や資料を公開して助言を得るなどして連携しています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束〇推進委員会」を設置し、毎月拘束に当たる行為がないか点検・確認を行っている。また職員を対象とした勉強会を定期的に開催し、拘束が及ぼす弊害の理解を深めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、虐待についての知識を深めている。入浴介助時や更衣時には全身確認を行い不自然な傷等の確認を行う。虐待防止委員会にを設置し、出席している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修に参加したり、後見人となっている職員からの話をきいたり書物を読んで制度の勉強を行なっている。成年後見制度利用されている利用者様はいませんが、そのような方が表れた時には適切に対応したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、契約書・重要事項の説明を丁寧に行い、不明点や不安が残らないよう配慮している。また状況の変化や法の改正、日々の利用についての疑問質問は随時受付、その都度真摯に対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、意見箱、積極的なご家族へのコミュニケーション、介護相談員のご意見を日々の取り組みに活かせるように会議で話し合ってサービスを改善している。第三者委員への苦情連絡ができるように連絡先を掲示している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に面談を行い、毎朝の朝礼時に日々のケアで発見したこと、改善したいことを職員から吸い上げ、迅速に対応できるよう努めている。また、ユニット会議で意見が述べられるようにし、良い意見は業務に反映するように気を付けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	なるべく定時で帰れるように業務の効率化を図り残業が慢性化しないように努めている。企画書等、報告書をチェックし、職員の努力や勤務状況把握の一部としている。職員のやりたいことは安全面を管理しながらなるべく実現させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に職員の能力を考慮して受講させるように計画している。また、適時OJTを行い知識・技術の向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	高槻市事業者協議会や老人施設部会に入会・参加し、他事業所との関わり、ネットワークづくりに努めている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	業務の中でゆとりを持ち傾聴できるコミュニケーションの時間を増やし不安・不満・要望を言いやすい関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面接時に家族様の思い・要望を傾聴して今後の方向性など助言し安心して利用して頂けるように行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その方にあったサービスが提供できるようにアセスメントの共有を行い話し合いを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	目上の人と言う気持ちは常に持ち言葉使いには気を付けて職員全体が接遇の意識を持って接することを心がけて支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	どちらかの意見に傾かないように意向を傾聴しています。両方の意向を踏まえ適切な支援ができるように日々、職員間と情報を共有し話し合っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	季節に応じ外出行事を取り入れて地域の馴染みの場所などに行けるように取り組みを入れている。また、馴染みの方たちが訪問しやすい雰囲気作りを行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間での関係性に配慮して配席していただいている。集団でのレクリエーション活動、及び個別ケアを行い個々に適した方法でコミュニケーションを図れるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	該当ケースなし。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族の意向、希望の確認を毎月担当ケアマネや代表者が聞き取りを行っているが、意思疎通困難な方の場合、家族の意向に沿う形になってしまっていることがある。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族と話し合う機会を持ち、生活スタイルや趣味などを継続できるように努めている。また、入所前に担当されていたケアマネジャーにも情報を頂いたり家族以外の情報を把握し本人にとって最善のケアができるように勤めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	レクリエーションはなるべく幅をもたせ、何をして過ごすか入居者様に選択して頂けるよう努めている。また出来る事はご自身でして頂くよう見守りと声掛けを第一に取り組んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎週1回サービス担当者会議を開催し、対象者の方の現状の課題やケアの方針を話し合っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の申し送りノートに得た情報を記入し共有している。また、各部署が共有できるように支援内容をPCに残すようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者のADLや認知能力を鑑み個々に支援させていただいている。その方本来の暮らしができるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のコミュニティやボランティアの訪問など積極的に取り入れ、入居者様の体調を見ながら参加していただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望者には同法人の往診・受診を受けて頂き、以前からのかかりつけ医を希望される場合は、情報の提供や受診付添などの支援を実施している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の様子や異変などは施設内の看護師と密に連携をとり対応している。主治医への連絡を密に行い、素早い医療処置提供が行えるように支援している。1名の方については訪問看護師と密に連携をとることがある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者様の入院時は迅速な情報提供を心がけ、入院中も定期的に面会し、本人の見舞いと同時に病院関係者と状況や退院後の相談などを積極的に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の対応については、入居契約時に話し、いくつかの選択肢を提示している。また、入居後も適時説明相談を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部・外部の緊急時対応訓練や応急手当などの勉強会・研修に積極的に参加し知識・技術の向上に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防署の指導の下、防災訓練を実施し、事務所や部署にも掲示物を設置し全職員が災害時の対応を迅速に行えるよう意識している。また、水害時訓練、不審者侵入時訓練も実施している。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇やマナーの研修に積極的に参加し、現場で活かしている。利用者に対し丁寧語を基本とし、その方の尊厳を大切に温かい介護を意識している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の言葉にならない思いを汲み取れるように日々の表情や行動を把握し、いつもと違うところが見られたときは、傾聴し困難になった事、我慢している事を吸い上げ、希望・要望を聞き取りケア・サービスを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日中・夜間の過ごし方は出来る限り個別対応を心がけている。レクリエーションに関しても個々に興味があることをしていただく様にしているが、人員の都合が付かず対応できない時もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後の化粧タイムや髪の毛のセットなど、こだわりをお持ちの方へは時間を配慮する。男性も髭剃りが難しくなった方へは介助にて行うなどの支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の嗜好・体質に応じて品目を替える、季節の行事食の提供、食のレク・イベントの実施などし、施設内外で食が楽しみになるよう考慮している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調に応じて食事形態を変更するが、レベルを落とすだけではなく、状態をみて普通形態へレベルアップも行う。また、水分もお茶だけではなく、コーヒー・紅茶・牛乳等を毎日提案している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助が必要な方は毎食後口腔ケアを実施。自立・一部介助の方へは声掛けや環境の整備を行い、口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人希望だけではなく、様子(サイン)や排泄間隔を観てトイレの誘導や声掛けを行い、失禁や失敗により自尊心が傷つかないように配慮している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく便秘・緩下剤の習慣化にならないよう、体操を行い、身体を動かすレクなども取り入れているが、効果には個人差があり個別の予防策(食物繊維を多く含むおやつやヨーグルト等の摂取)も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日は固定しているが、ご本人様の希望をお聞きし入浴の回数を増やしたり、入りたくない希望があれば翌日に変更するなどの対応はとっている。入浴時間に関しては利用者の見守り職員が多い時間帯に入浴を勧めるなど職員都合になってしまっているところはある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本は夜間に良眠できるよう、日中はレクなどの参加を呼び掛けるが、自宅環境上夜間よく眠れない方、昨晚眠れなかった方などには個別に日中もベットやマッサージチェアにて小休憩を提案している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新たに薬が処方された場合、看護の指示のもと本人の様子観察にも注意している。薬の目的や副作用、用法、用量については看護職員との連携や薬局からの薬情報で深めていく努力をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	スポーツ系のレク企画や個人の気質に応じてレクを仕切って頂くなどおひとりおひとりが楽しく過ごして頂けるように配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎回実施はできていないが、個人の希望により散歩や買い物、散髪などを施設の職員全体で対応して実施している。また地元のイベントや行楽行事も参加者を募り出かけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設としては事務所での預り金管理対応し、買い物など必要時に引出す対応をとっているが、個人の強い希望がある場合は、本人・家族と相談、確認の上で所持して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人携帯を持たれている方には発信・受信の一部介助を行ったり、合って話がしたいとの希望がある場合は、その旨を家族様へ連絡し、来所をお願いするなどして希望に沿うように努めている。また、年賀状発送等の支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日清掃を実施。ご自身のお部屋を間違わないように飾りをつけたり、その日の催し事や時間の流れがわかるように予定表を飾ったり、毎日が不安にならないようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	人間関係に配慮しテーブルを設置している。マッサージチェアやソファークッションを設置し、個別空間の配慮を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前の過ごされていた馴染みの空間を再現できるように、ご自宅から思い入れのあるたんすや仏壇など持ってきていただき安心して生活できるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立して生活が出来るよう、食事作りの参加や洗濯干しや取り込み、洗濯物たたみなど出来ることをしていただき、生活感を感じていただいている。		